

2017年 春号
通算17号
2017年4月発行



季刊) 医療法人社団シャローム 広報誌

シャローム通信



医療法人社団シャロームの理念と使命

【理 念 (表題)】

私たちは聖書の教えに基づき、病める人々とご家族の痛みに寄り添い、心を合わせて、優しく温かい医療に努めます。

【使 命】

在宅医療、緩和医療、救急医療を特性とし、地域のニーズに呼応した多岐にわたる医療を行う。

『大切なこと』



シャローム病院
すきからみのる
院長 鋤柄 稔

この春、当院は設立から23年目を迎えます。昨年は、病院機能評価の認定とそれに引き続いて保険診療で運営する緩和ケア病棟が許可されるというエポックメイキングな出来事がありました。埼玉県には当院含めて14の緩和ケア病棟があります。その中で総ベッド数が100床以下の病院は当院だけです。また、診療所が病院になってすぐに病院機能評価取得を目指したのは全国的にも当院が初めてと聞きました。数年間の苦しかった準備期間を振り返ってみますと、「小さな病院でよくやった」との思いと職員へのねぎらいの思いが湧いてきます。

病院機能評価取得、緩和ケア病棟運営開始となった今、私どもの次なる目標は何でしょうか？患者数、経営収支などを右肩上がりにする、また、右肩上がりの成長を期待し、目指す、あるいはそれを公の場で発表することはよくみられることです。しかし、数字の右肩上がりを主たる成長の指標にすることよりもっと大切なことがあるように思われています。

マザーテレサの言葉、「大切なことはどれだけたくさんしたことや偉大なことをしたかではなく、どれだけ心を込めてしたかです。」も当院運営上で参考にする言葉として取り上げてきました。心を込めるとは、愛の思い、愛から生まれた行いを指していると考えます。よく教会の結婚式で読まれる聖書の言葉ですが、パウロは、「たとえ、人々の異言、天使たちの異言を語ろうとも、愛がなければ、わたしは騒がしいドラ、やかましいシンバル。たとえ、予言する賜物を持ち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようとも、たとえ、山を動かすほどの完全な信仰を持っていようとも、愛がなければ、無に等しい。全財産を貧しい人々のために使い尽くそうとも、誇ろうとしてわが身を死に引き渡そうとも、愛がなければ、わたしに何の益もない。」と語りました。聖書（キリスト教）を基礎として設立された聖路加国際病院の理念は、「キリスト教の愛の心が、人の悩みを救うために働けば、苦しみは消えてその人は生まれ変わったようになる。この偉大な愛の力をだれもがすぐわかるように計画されてできた生きた有機体がこの病院である（ルドルフ・B・トイスラー、1933）」となっています。

私も、患者さんやそのご家族、職員からの愛の言葉で励まされ、立ち直れたことを少なからず経験してきました。患者さんやご家族を愛することはもちろん、職員相互が互いを労わり、思いやることの大切さをもう一度考える時期と思わされております。最後に、23年間の歩みの中で、心を込め、愛をもって支援して下さった皆様に感謝いたします。

講演会のお知らせ

ホスピス講演会

「この町のホスピスにやってきました」

日時 6月17日(土) 12:30開場 13:00開演

会場 東松山市民文化センター (東松山市六軒町 5-2)

入場無料
予約不要
手話通訳あり



加藤 修一

シャローム病院

～緩和ケア病棟開設一周年を記念して～

当院において、保険診療が可能な緩和ケア病棟が開設されて、今年の7月で一周年を迎えることから、皆様への感謝の気持ちをお伝えすると共に、地域におけるホスピスへの理解を深めて頂くため、「ホスピス講演会」を開催することとなりました。

皆様お誘い合わせの上、是非会場へお越し下さい。心よりお待ちしております。

講演会プログラム

第1部

シャローム病院 院長

鋤柄 稔 すきがらみのる

「シャローム病院の歴史を振り返って」

元 NPO法人ホスピス研究会さいどばいさいど代表

蛭川 和省 氏 ひるかわかずみ

「我らの街にホスピスを！」

コーラスグループ「しらゆりパジャマ」

アカペラミニコンサート♪

第2部

シャローム病院 緩和ケア科長・日本緩和医療学会暫定指導医

加藤 修一 かとうしゅういち

「この町のホスピスにやってきました」



鋤柄 稔



蛭川 和省 氏

お問い合わせ シャローム病院 TEL:0493-25-2979 (担当:総務課 中島・土岐)

※できるだけ公共の交通機関でお越しくださいますよう、ご協力をお願いいたします。